

野良猫シロ

梅津純子^{すみこ}

離^{さか}り住む老父母訪へば野良猫が姿を見せぬ小^ささき白毛の
林の中の一軒家なる里の庭に野良猫幾匹徘徊すらし

白猫が餌場寄らむに大猫の唸り声上げ飛びかからむとす
白猫をあはれと父が棒をもて大猫庭より追ひ払ひしとふ

日をおかず現るるらし白猫はボス猫追ひし父頼るがに

「あの猫の両眼は金と青色だ」老いたる父はちよつと得意げ

正月に帰省せる折戯れに野良猫シロに食べ残し与ふ

唸り声にみれば昨日の白猫が鼠を銜へ吾を見上ぐる

残飯を与へし場所に鼠置きシロが正座す礼にきたるや

帰る吾を見送る父母の後ろには野良猫シロも現れ座る